

# 新 専門医制度 スタート(上)

## 私たちはどう向き合う?

いま医学部では、間もなくスタートする新専門医制度を利用し、「専門医をとるなら大学に預ったほうが有利」などの発言が教員などから相次いでいます。そのため「大学でない」と価格が取れない

いま医学部では、間もなくスタートする新専門医制度を利用し、「専門医をとるなら大学に預ったほうが有利」などの発言が教員などから相次いでいます。そのため「大学でない」と価格が取れない

「など」も通ったつもりで、医学部の中でキャリア形成は白を奪われる場面も生まれています。

医師としての目標とするものは、医師のゴールとは何でしょうか。「専門医」を取得するだけでは、高城正四郎医師(群馬中核臨床研修センター)は、「三年間で専門医になる必要なんかないと思います。どうしてそんな早く専門医になりたいんですか。スタートした二十四歳で医師免許をとり、それから五年間、二十九歳で専門医になるんですか。七十五歳まで働かなくていい、退職後の専門医だったらあと四五年間、カネがはかりやういっていいんで

では、民間医連のみならず多くの医療団体が同様に懸念の声をあげ、地域医療の現場に大きな影響が出ないように努力していること。④医師としての出発点である初期研修の二年間は、将来どのような医師になるかを左右する重要な期間であり、そこを修得するのは難いものである。⑤研修医(初期・後期)ともに、研修を受けるお客さんではなく、指導医たちとでも研修をへんして行く主体者であり、制度の改善を求めて声をあげるべき大切なこと。など、それぞれの医連・法人・事業所の現在と未来を踏まえて語りかけることが必要です。

研修生だけでなく、現在の二、三年目の研修医にたいわいに伝え、思いを届ける必要があります。

現場の姿をまっすぐに見て、医療現場に研修や実習で訪れた

医師や研修医、共同組織の皆さんも含め多職種から、医師養成や医療課題にテーマで関わる形での姿を促しましょう。これは民間の研修の大きな機軸です。また、命の平等が問われる現場を伝える、根本にある矛盾に立ち向きあう、根本にある矛盾に立ち向きあう、その中で最も弱い人たちをバックする民間医連へ、後継者になってほしい」と、重慶に訴えかけました。

全日本民間医連連合会は、二〇二一年からは、毎年研修生一〇〇〇人が合格する民間医連へ、中低学年で研修生を増やし、育ちの大運動を掲げました。この〇月からは、今年四月までに、中低学年の研修生を二〇〇人の研修生を増やすことを掲げました。民間医連の後継者を、また、今後の民間医連の旗をひくために、大事をひらいてほしいと訴えています。

## 多職種で医学生に語ろう 200人の医学生が合流する民間医連へ

新しい専門医制度が二〇二一年度からスタートします。医学生、研修医への働きかけや現場の対応など、二回連載で書きます。

### フィールドワーク 8コース

▶ハンセン病〜土内の絶景と果物を満喫しよう〜長島愛生院職員を案内。ハンセン病患者を隔離を無視した国の歴史や、差別の実態を学びました。

▶朝日訴訟〜朝日訴訟の民間医連の先達と話をしました。ために民間医連

▶亀島山地下工場〜亀島山地下工場から見える水島地域の歴史と倉敷医療生協の成り立ち〜亀島山地下工場は第二次世界大戦中に作られた三菱の航空機工場。亀島山地下工場を語り継ぐ会・上羽修副代表の講演を聞き、平和について考えました。

▶森永ヒューマン・水島協同病院と政府の連携、民間医連の連携を学びました。家務に携わることよく分かった。

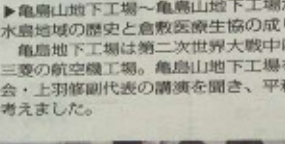
▶岡山大空襲・戦跡めぐり〜岡山大空襲における書や戦跡めぐりや体験者の話を通して学習しよう岡山大空襲の体験者の話を聞き各地の戦跡をめぐりました。戦争する国へと向かう情勢を議論しました。

▶バイオマスツアー〜バイオマスタウン真庭市で考える「持続可能な社会」と「脱原発」真庭市で行われていた産業を学び、かを学びました。「かを学びました。もっと話性として深く知らなければ

▶水島協同病院と倉敷市職員から倉敷での大気汚染公害を学び、水島協同病院・里見和彦院長の講演で患者に寄り添う医療を考えました。「患者自身が先頭で行動したのがすごい。ささえる側でもいいから、行動できる人になりたい。これから利用者も第一に考えて仕事したい」(ねぎちゃん、介護福祉士・北海道)



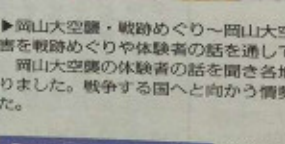
朝日訴訟〜朝日訴訟の民間医連の先達と話をしました。ために民間医連



森永ヒューマン・水島協同病院と政府の連携、民間医連の連携を学びました。家務に携わることよく分かった。



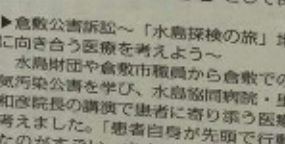
岡山大空襲・戦跡めぐり〜岡山大空襲における書や戦跡めぐりや体験者の話を通して学習しよう岡山大空襲の体験者の話を聞き各地の戦跡をめぐりました。戦争する国へと向かう情勢を議論しました。



バイオマスツアー〜バイオマスタウン真庭市で考える「持続可能な社会」と「脱原発」真庭市で行われていた産業を学び、かを学びました。「かを学びました。もっと話性として深く知らなければ



水島協同病院と倉敷市職員から倉敷での大気汚染公害を学び、水島協同病院・里見和彦院長の講演で患者に寄り添う医療を考えました。「患者自身が先頭で行動したのがすごい。ささえる側でもいいから、行動できる人になりたい。これから利用者も第一に考えて仕事したい」(ねぎちゃん、介護福祉士・北海道)



石から新卒を募集。院長が

通信募集 文書に写真を添え、氏名、事業所名、連絡先を明記、nin-shinbu@min-iren.jpへ。通信の採用は掲載をもって代えさせていただきます。